

公開シンポジウム 熱帯へ行こう！ 国際協力・国際教育・国際研究の楽しさ

熱帯×フィールド×あなた！ リアルな国際協力・研究・教育の世界を体験しよう！
将来、国際協力や研究、活動の現場に立ちたい人に

開催概要

日時：2025年6月29日(日)13:00~16:30 (JST)

会場：九州大学伊都キャンパススウエスト5号館232講義室&オンライン(Zoom)

参加費：無料

参加方法：会場にお越しの方は、当日会場にてお申込みください

オンライン(Zoom)参加の方は、右のQRコードよりお申し込みください。

オンラインでの申込受付締切は、6月27日(金)午後5時です。



オンライン申込



会場アクセス

シンポジウム趣旨

熱帯地域は、自然や文化が豊かな一方で、気候変動や地域づくりの課題にも直面しています。一方で、大学生の海外渡航は減少傾向にあり、現場で学ぶ機会が少なくなっています。

このシンポジウムでは、熱帯の現場で活躍する方々から、リアルな経験や、フィールドでの本音や楽しさを語ってくれます。「海外に出てみたい」「何か始めてみたい」そんな皆さんの参加をお待ちしています。

プログラム(予定)

13:00-13:10	開会あいさつ・趣旨説明	
	第1部:リアルと向き合う:熱帯での協力・研究・生活	
13:10-13:40	講演① 国際協力の現場で10年働いて見えてきた、49の大変さと51の楽しさ	花村 美保
13:40-14:10	講演② ラオス在住30年、“タマサート(自然)”な暮らしはどこへ?	虫明 悦生
14:10-14:40	講演③ 熱帯地域におけるフィールドワークの魅力と課題—インドネシア・ジャワ島およびスマトラ島での調査経験から—	加反 真帆
14:40-15:10	講演④ このままじゃ生きていけない..内定ゼロからカンボジアで挑戦に至るまで	河地 一樹
15:10-15:25	休憩	
	第2部:海外へ導く教育:大学におけるフィールド学習の試み	
15:25-15:50	講演⑤ 学生を主体とした国際交流プログラムの取り組み:インドネシア森林サマ—コースとIFSAQ設立	藤原 敬大/ 岩野 純奈
15:50-16:15	講演⑥ 「ものの見方」を変える海外フィールド教育	寺内 大左
16:15-16:30	総合討論	

※プログラムは予告なく変更になることがあります



ゲストスピーカー

花村 美保	一般社団法人 日本森林技術協会 専門技師
	<p>大学時代、他学科のタイ・カンボジア海外実地研修に潜入して初海外。現場の魅力にはまる。また、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)プロジェクトへの参加により、現地の人と協働して1つのことを成し遂げるこの魅力、国際協力・国際開発分野で活躍する日本人のかけよさに惹かれ、開発コンサルタントに。以来 10 年近く、山あり谷あり汗と涙と鼻水あり、転職を1度経験しながら、アジア・アフリカ・南米にて国際協力業務に従事している。</p>
虫明 悦生	インハウスコンサルタント (JICA ラオス事務所勤務)
	<p>たまたま訪れたタイにはまり、その延長でラオスに居着き、いつの間にか 30 年が経ちました。1990 年代のラオス全土の旅行、生業・生活誌や土地利用、村々の独自産品に関する調査・研究、民謡採録とケーン(ラオス笙)演奏、織物復興の手伝いやオブジェクトシアターへの参加…。近年は、対ラオス ODA 小規模支援や留学事業にも携わってきましたが、「ラオスの人と自然との関わり」への興味は尽きることがありません。</p>
加反 真帆	九州大学大学院農学研究院 日本学術振興会特別研究員(PD)
	<p>2018 年4月 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(5 年一貫制博士課程) 入学、2020 年4月～2023年9月学振特別研究員(DC)として「泥炭社会の変動:インドネシア・リアウ州の事例」に関する研究に従事、2024 年3月 博士号(地域研究)取得、2024 年4月～学振特別研究員(PD)として「再資源化ガバナンスの持続性に関する実証的研究:インドネシアの泥炭地を対象に」に関する研究に従事</p>
河地 一樹	Kumae 養鶏・コオロギ事業者 牛タン屋店長
	<p>学生時代に休学しカンボジアのプロサッカークラブにてインターン。帰国後就活をするも失敗。大学卒業後はベトナムのサッカークラブにて運営とコーチの仕事に挑戦。コロナ禍真っ最中により外出不可、上司とのトラブルにより半年で頓挫。帰国後アルバイトでお金を貯め、Kumae で挑戦するために再びカンボジアへ渡航。Kumae が活動する村にて養鶏、コオロギ事業に挑戦中。移住して半年後に、Kumae 運営のレストラン牛タン屋 Re:与作を再オープンし運営。</p>
藤原 敬大	九州大学大学院農学研究院 准教授
	<p>専門は森林政策学、林業経済学。インドネシアを主なフィールドとして森林政策全般、社会林業、ランドグラブ、ポリティカル・フォレストに関する研究を行っている。また東南アジアを中心とした留学生(修士・博士課程)の指導も行っている。2023 年度からガジャマダ大学森林学部や CIFOR とも協力して森林サマーコースを実施し、日本人学生らをインドネシアへ引率している。</p>
寺内 大左	筑波大学人文社会系 准教授
	<p>筑波大学人文社会系准教授。環境社会学・環境人類学を専門とし、インドネシアの熱帯林保全と農村開発に関する研究に取り組む。2017 年からは学部生を対象とした海外フィールド教育にも携わる。著書に『開発の森を生きる』(新泉社、2023 年)、共著に『人類学者たちのフィールド教育』(ナカニシヤ出版、2021 年、「自己変容型フィールド調査の試み」執筆)などがある。</p>

司会: 百村帝彦 九州大学熱帯農学研究センター 教授



主催: 日本熱帯生態学会

九州大学熱帯農学研究センター(設立 50 周年記念事業)

後援: 九州大学大学院農学研究院

九州大学大学院地球社会統合科学府/比較社会文化研究院

日本熱帯生態学会
The Japan Society of Tropical Ecology



九州大学 KYUSHU UNIVERSITY 農学部 FACULTY OF AGRICULTURE



地球社会統合科学府